

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	高尾 佳代 (****年**月**日)
本籍	*****
学位(専攻分野)	博士(保健看護学)
学位授与番号	甲第180号
学位授与日付	令和5年3月21日
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当
論文題目	口唇裂・口蓋裂の子どもへ母親が病気を伝えるための支援プログラムの開発
審査委員	教授 竹田 恵子 教授 守屋 文夫 教授 中新 美保子

博士論文内容の要旨

本研究は、口唇裂・口蓋裂（以下CLPとする）の子どもへ母親が病気を伝えるための支援プログラムを作成し、縦断的介入研究（Multiple-case study design）によりその有用性を評価することを目的とした。

文献検討と聞き取り調査の結果をもとに、支援プログラムを考案した。環境の変化への適応を支援する看護活動を理論化しているロイ看護適応モデルを参考に、母親がCLPの子どもへ病気を伝えるという行動を適応と捉え、CLPの子どもへ病気を伝える母親の適応看護モデルを作成した。A病院に通院している5歳から6歳の外鼻修正術前のCLPの子どもの母親8名を対象に支援プログラムを実施した。その結果、全事例の母親は子どもに合わせたタイミングや方法を選択し、病気を伝えるという適応行動を示した。本支援プログラムは、外鼻修正術を受ける前の「CLPの子どもへ母親が病気を伝えるための支援プログラム」として有用であることが示された。

本支援プログラムの更なる有用性の検証により、他の医療機関を受診している母親へも広く普及させることの可能性が示唆された。

博士論文審査結果の要旨

CLPは先天性異常の中でも発生率の高い疾患であるが、これまで本研究で考案した「CLPの子どもへ母親が病気を伝えるための支援プログラム」と同様のものが作成されてこなかった理由についての質問があった。子どもの人権を尊重することなど、時代的な背景の変化が考えられることを回答した。また、本支援プログラムの信憑性の確保に関する質問に対しては、今回用いたMultiple-case study designにより、質・量の両面から分析したことで確保に努めたことを回答した。さらに、CLPの子どもへ病気を伝える母親の適応看護モデルにおける、支援プログラムの位置づけについての質問があった。支援プログラムは適応を促すための意図的な刺激であることを回答し、理解が得られた。

これらの適切な回答により、本論文が「CLPの子どもへ母親が病気を伝えるための支援プログラムの開発」に関する新規性、発展性のある研究であり、有益な知見を示したと評価された。なお、最終試験に向けて、介入研究のデータ収集・分析方法および考察について、記述の仕方の工夫が求められた。